

作業療法士は、作業活動で人を“元気にする”専門家です  
～東日本大震災の復興に向けて～

(社) 石川県作業療法士会  
会 長 進藤 浩美

平成 23 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分ごろ、マグニチュード 9.0 を記録する地震が三陸沖で発生しました。この観測史上最大の大地震は、東北、関東地方に大津波として襲いかかり、レベル 7 の福島原発事故を引き起こしました。この地震により、被災された皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。現在も放射能の問題、関東の電力不足問題、それに伴い生産できず不足する物資の問題、農作物・畜産の問題、そして生活・雇用・教育など様々な問題が日本全土を襲っています。会員の皆さま方におかれましても、職場で、地域で、さまざまなお立場で支援に関わっていることとお察し致します。当会としても、極めて弱小団体ではありますが、復興にむけてできる限りの支援をしていきたいと考えております。

今から 4 年前の平成 19 年 3 月 25 日、能登半島沖地震が起きました。昨日のことも思われたり、随分過去のことも思われます。4 年前、私たちは何をやったのか、何ができたのか、今生かせることは何かを振り返りました。私たちがやったのはまず、会員の被災状況の確認、会員の勤務先の被災状況の確認でした。3 日後には、石川県におられた神奈川県立保健福祉大学の作業療法士の清水順市先生(現在は、金沢大学)が、元当会今寺会長の勤務する青山彩光苑穴水ライフサポートセンターを生活拠点とし、ボランティア本部での活動を開始しました。私たちは、清水先生からどのような支援活動を行っていくべきか現地の情報収集を行いました。同時に、会員の中で災害ボランティアとしてご協力いただける方の登録を行い、現地の要請に応えられる体制を構築しました。そして義援金を集めるために支援用のジャンパーを作りました。県に義援金をお渡しし、支援できる体制であることも報告しました。それから、避難所で日常生活能力が低下した方々の支援の依頼がきましたので理学療法士会とともに行いました。季節は 6 月となり、『がんばっています能登』うちわをつくり、暑い夏を乗り切っていただくために、仮設住宅に 1 件 1 件うちわを配らせていただきました。その後、『応援します』うちわをつくりいろいろなところで活用してきました。被災者を勇気づけ、被災者・被災地が“元気になる”ために、

この『がんばっています能登』、『応援します』うちわを全国の研修会がある度に販売し、能登観光の PR を行い、能登の観光地、西山パーキングの売店、桜峠の売店、千枚田の売店などにこのうちわを置いていただき、“元気にする”活動を展開しました。これらの活動は、他県の作業療法士会からいろいろな形で支援をいただき、励まされた活動でした。

今回も『今、私たちにできることは何か?』を問いかけ、会員一丸となりできる支援を行いましょ。現在、行っていることは下記のとおりです。

- \* 義援金活動
- \* 岩手、宮城、福島の作業療法士会へ活動資金支援
- \* 被災地域での臨床実習が困難となった学生の実習受入れ情報確認
- \* 被災会員の復職支援情報確認(求人情報の提供)
- \* 被災地域での生涯教育支援、相談

作業療法士は、作業活動で人を“元気にする”専門家です。東日本大震災の復興に向けて、日本の復興のために、力強く走りましょう。